

大人の
ための
歯科講座

「歯科治療の新潮流」

＝④＝

皆さんはインプラントが、歯科で治療した部位という治療がどの位置というのは完璧に元うなものかはある程度の歯の状態に戻っていき存知ではないでしよるわけではないといううか。良い意味でも、ことです。治療したか悪い意味でもマスコミラ治った(治療した)やインターネット、セと考えるのは少し違いミナー、歯科医師の説ます。またどの治療法明などを通して情報にも利点、欠点が入ってきいていると思あるということ。今より数回にこの方法が絶対ですと渡ってインプラントにいうのはありません。ついでお話ししていきたそれはインプラントも

同様に。インプラント治療は歯科治療の中欠損補綴という意味では欠損補綴(失った歯を回復させる治療)の手段の一つです。義歯(入れ歯)やブーン。しかし他の治療法と比べると歯科医師にとっても患者にとっても特別な物なのです。詳細については次回よりひも解いていきますが、経済性(保険外治療で高額であること)、社会性、義歯(入れ歯)との違い、骨を扱う外科を要すること、成功と失敗の明確さ、メンテナンスなどインプラント特有の内容が多くあるからです。ただ絶対に言えることはこれらの特殊性を双方が理解して、しっかり行えばインプラント治療のもたらす効果は患者さんによっては大きいということだと思います。

ルーセントデンタル
クリニック 副院長
後藤 英夫



＜略歴＞ 1998年、東京医科歯科大学歯学部卒業。名古屋大学医学部遺伝学センター医師、国立長寿医療センター歯科口腔外科勤務などを経て、2008年からルーセントデンタルクリニック副院長。

歯科界と患者に
可能性もたらす

インプラントは万能か

いと思いません。私はインプラントを積極的に治療の手段として取り入れて行っています。しかしインプラントが万能だとは思っていません。他の治療法と同様に適応症があります。適応症とは簡単に言えば、その患者さんに向いているかどうか、その治療が安全に行えて、効果が他の治療法に比べて大きいと判断できるかということです。皆さんによく知っておいて欲しいことは第二回でお話ししました

●インプラントがもたらした内容(一例)

- 歯科医師には臨床面において
- ・CTなどの診断機器の発達と診断の重要性が増した。
 - ・インプラントの出現で歯科における研究内容が充実した。
 - ・歯周治療、補綴治療、外科処置といった総合力が問われるようになった。

- 患者さんには
- ・義歯(入れ歯)に抵抗があり、不都合が多い人には良い結果をもたらした。
 - ・メンテナンスが通常以上に重要になってきた。

非常に高額な治療であり、カウンセリングという言葉が歯科界に入ってきた。インプラントに対する歯科医師の考え方は多様で、それが一般の方に混乱を与えている印象がある。またインプラントに関する技術・知識には歯科医師間で差があり、またそれ以上に医療倫理も含めた考え方が結果に影響を及ぼしている。患者側もより、歯科医師や歯科医院をみる眼が厳しくなり、今まで以上に信頼関係が重要になってきた。

ルーセントデンタル
クリニック 名古屋市
西区牛島町6の1・名
古屋ルーセントタワー
3階、電話052・9
08・8555、UR
L www.lucant-dc
om.

メディカルニュース